

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名 和歌山県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	田辺市立田辺第二小学校								教員数
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	30
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20	
児童数	78	94	83	99	101	118	5	578	

・研究の概要

1. 研究主題

「自ら求め学び合う学習」
生きる力を育てる教育活動の創造 基礎学力の確実な定着を図りながら

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・3・5年生 算数(子どもの理解度に差が出やすい教科、学年であるため。)
- ・5・6年生 理科(子どもの興味関心を活かした授業展開がより可能な教科のため。)
- ・全学年 漢字、計算(全ての教科の基礎である読み・書き・計算の確実な定着を図るため。)
- ・全学年 暗唱、読書(優れた文学作品に触れ暗唱することを通して、より豊かな心を育むため。)
- ・全学年 体力づくり(運動に親しむ機会が減少している現状により、体力づくりに意欲的に取り組む姿勢を育てるため。)

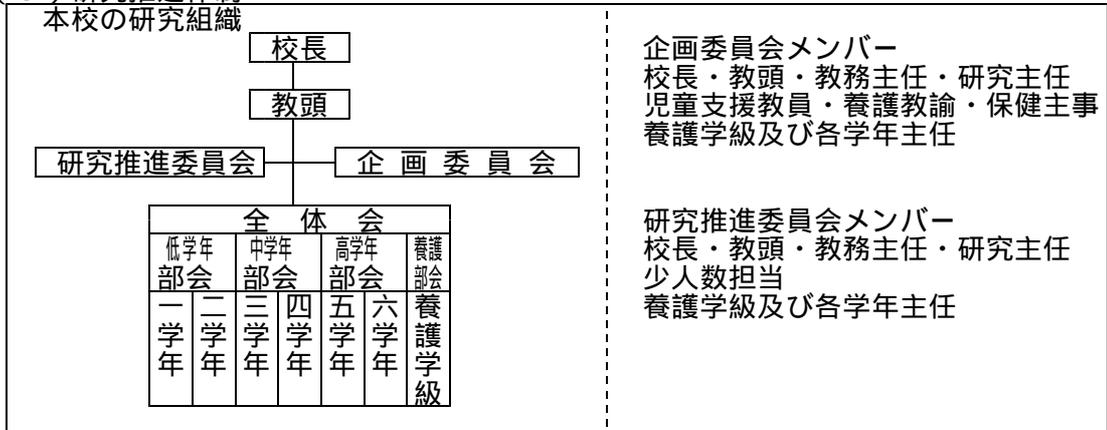
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「自ら求め学び合う学習」 生きる力を育てる教育活動の創造 基礎学力の確実な定着を図りながら</p> <p>研究の見通し(仮説) 教育活動において、次のような手立てを行えば、確かな学力が身につく、学ぶ喜びと楽しさを感じ、自ら求め学び合う学習が成立するであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字、計算を中心とした習熟度別の学習 ・素読、朗読、暗唱集を活用した全校読書の実施 ・走ることを中心とした全校体力の実施 ・個に応じたきめ細かな指導の工夫(TT指導・少人数指導) <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字、計算を中心とした習熟度別学習における指導方法、指導体制の工夫改善 ・基礎基本を身につけるための本校独自の教材の開発 ・個に応じたきめ細かな指導のための指導方法及び指導体制の工夫改善(TT指導・少人数指導)
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 「自ら求め学び合う学習」 生きる力を育てる教育活動の創造 基礎学力の確実な定着を図りながら</p> <p>研究の見通し(仮説) 教育活動において、次のような手立てを行えば、確かな学力が身につく、学ぶ喜びと楽しさを感じ、自ら求め学び合う学習が成立するであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字、計算を中心とした習熟度別の学習 ・素読、朗読、暗唱集を活用した全校読書の実施 ・走ることを中心とした全校体力の実施 ・個に応じたきめ細かな指導の工夫(TT指導・習熟度別少人数指導) ・学ぶ喜びと楽しさを感じ、子どもが主体的に学習する授業の実施 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字、計算を中心とした習熟度別学習における指導方法、指導体制の工夫改善 ・個に応じたきめ細かな指導のための指導方法及び指導体制の工夫改善(TT指導・習熟度別少人数指導) ・学ぶ喜びと楽しさを感じ、子どもが主体的に学習する指導方法の工夫改善(国語科、社会科、算数科、理科、生活科の授業研究を中心に)
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「自ら求め学び合う学習」 生きる力を育てる教育活動の創造 基礎学力の確実な定着を図るために研究の見通し(仮説) 教育活動において、次のような手立てを行えば、確かな学力が身につく、学ぶ喜びと楽しさを感じ、自ら求め学び合う学習が成立するであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ喜びと楽しさを感じ、課題に対して子どもが主体的に追究する授業の実施 ・個に応じたきめ細かな指導の工夫(TT指導・習熟度別少人数指導) ・漢字、計算を中心とした習熟度別の学習 ・素読、朗読、暗唱集を活用した全校読書の実施 ・走ることを中心とした全校体力の実施 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ喜びと楽しさを感じ、子どもが主体的に学び合う指導方法の工夫改善 ・個に応じたきめ細かな指導のための指導方法及び指導体制の工夫改善(TT指導・単元又は学期単位での習熟度グループによる少人数指導) <p>(国語科、社会科、算数科、理科、生活科の授業研究を中心に)</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・昨年度より実施している日程時間割と週行事により各学年で学びタイム(漢字、計算の習熟度別学習)をより充実した体制で実施することができた。又、この時間で使用する本校の手作り教材(漢字・計算習熟プリント)を改良することができた。
- ・朝の全校読書で使用する暗唱教材(素読・朗読・暗唱集)も改良し、全校で活用できている。
- ・算数の少人数指導・習熟度別少人数指導(3年・5年)及び漢字・計算の学びタイムを実施するとともに、学期毎に行う復習テストの実施に伴い、基礎学力の変化を定期的に分析する校内体制が整った。その結果、1学期は全学年昨年度より平均点が上がっており、2学期は1年生から4年生までは漢字・計算とも90点以上得点できるようになってきている。上記取組2年目の成果が出てきていると捉えている。

2. 今後の課題

- ・本年度実施した少人数指導・習熟度別少人数指導をより充実した取組にしていくために指導方法、指導形態の研究を続けていく必要がある。また、そのために保護者の理解を得るよう努力していく必要がある。
- ・読み、書き、計算についての基礎的な学力向上については充実しつつあるので、学ぶ喜びと楽しさを感じ、子どもが主体的に学習する指導方法の工夫改善や発展的な学習について、本校の中心テーマとし研修していく必要がある。
- ・本校独自に実施している漢字・計算の復習テストでは、低・中学年で正答率が9割をこえるようになってきたので、今後高学年でも定着度を高めていく必要がある。
- ・復習テストの結果、分析を継続し、本校の基礎学力の向上の取組の評価にしていく必要がある。・本校の手作り教材の改善。・評価補助簿の改良。

学力等把握のための学校としての取組

- ・ 3年生と5年生を対象に1学期学力検査を実施し、その結果を分析。
- ・ 2年生から6年生を対象に、前学年の漢字と計算の定着度を把握するために5月に復習テストを実施。
- ・ 1年生から6年生を対象に漢字と計算の定着度を把握するために11月と3月に復習テストを実施。
- ・ 12月、4年生から6年生を対象に県下一斉学力診断テストを実施し、自校の児童の学力の実態を把握し、今後の指導に生かす研修を行う。
- ・ 復習テストの結果については、全児童の個人データをまず学級担任が把握し、次にクラス全体、学年全体、学校全体の課題を把握するために、各学年の得点分布や全体の平均点を一覧表にし、現職教育や職員会議で研修し課題や成果についてまとめ次の指導にいかしていく。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 西牟婁地区学力向上推進協議会において、フロンティアティーチャーが本校の取組を発表し、協議のうえその成果を西牟婁地方のすべての学校に普及する。(平成15年7月29日)(平成15年10月20日)
- ・ 平成15年度県教育課程研究協議会において、フロンティアティーチャーが本校の取組を発表し、その成果を西牟婁地方の学校に普及する。(平成15年8月22日)
- ・ 学力向上フロンティアスクール研究発表会を開催し、本校の取組を発表するとともに、本校の手作り教材(漢字・計算習熟プリント集、素読・朗読・暗唱集)と学校紹介CDを参加校に配布し、その成果を県下全域の学校に普及する。(平成15年12月4日)
- ・ 平成15年度西牟婁地方学力向上フロンティアスクール研修会において、本校の取組を発表するとともに、指導講話を受け研修する。
- ・ 学校便り、学年便り等を利用して保護者、地域の方々にフロンティアスクール校としての取組を理解していただく。
- ・ 学校紹介パネルを作成し、学校開放週間等を利用し保護者、地域の方々に取組を紹介する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無